

社会福祉法人 北海長正会 50 ISSUE

四世園

笑顔

笑顔を求めて、
これからも

記念
50号

テーマ

笑顔 の先 にある 喜びと 笑顔

社会福祉法人 北海長正会 理事長 三瓶 徹

サービスの先にある喜びと笑顔

▼平成の時代の超高齢化と生活課題

四恩園の事業は、平成の時代を飲み込むように突き切った感があります。

四恩園は一九九五年（平成七年）に開設し、平成の時代の人口構造は高齢化から超高齢化社会へと変化し、社会福祉事業は、措置から利用へと市場原理に基づく介護保険制度が二〇〇〇年（平成十二年）に施行され戦後最大の改革が行われました。時代の大きなうねりのなかで、三年ごとに見直される介護保険制度の仕組みに翻弄されながら平成を駆け抜けてきました。私たちは超高齢化する北広島団地（以下「団地」）を中心に事業を展開しております。団地の高齢化は尋常ではなく一九九五年三月の人口は一九六八五人で高齢化率二二・六%であったものが、二十四年後の二〇一九年三月には人口が一五、二一九人と激減し、高齢化率も四四・八%と急上昇しております。高齢化率は三、四年で五割に達する勢いです。この間の団地の生活課題は、一人暮らしや二人暮らし高齢者の急増、高齢者の孤立化、孤独死、認知症高齢者の増加と行方不明、老々介護や認知介護、虐待など深刻であります。これらの生活課題は多くの痛みをつくりま

私たちの福祉という仕事は、信頼できるサービスによる関わりからおお客様の喜びや笑顔につながる仕事であります。介護と医療を必要とし生きづらさを感じている人は、日常的に喜びや笑顔を見出すことは容易ではありません。福祉サービス利用者の持つ痛みは、身体的生理的な痛みだけではなく、病气や障害でいたいことができず衣食住に困ったり、偏見により相手にしてもらえなかったりと精神的社会的な痛みも含むものであります。私たちの仕事は、これらの痛みに各種制度の社会資源を活用し、その痛みを軽減あるいは消失させることを目的とするものです。これらの痛みは程度の差こそあれだれも

が避けられない痛みとしてあります。これらの痛みへの取組みは、制度によるものもあれば（公助）、互いに助け合う（共助）ことや、自らを守り助ける（自助）ことなどがあります。これらの助け合いは、人の関わりを必要とし、それは家族や地域の人々または役所の人であったり、医療や福祉の職員であったりします。痛みは様々だが、その痛みを共感し、信頼できる人が寄り添ってくれることで痛みを和らげることができるのです。喜びと笑顔は、この痛みの軽減・消失の先であり、私たちの仕事の成果は、痛みを持つ人たちに、どれだけ質の高い喜びと笑顔をつくり出すことができるかにあります。



す。このような地域環境で四恩園は、特養とシヨートステイ、デイサービスと在宅介護支援センターの四つの事業でスタートし、現在、地域交流事業を含め十五の事業を行うに至りました。

▼共に力を合わせ 笑顔あふれるまちづくり

四恩園は、開設時から「四恩園を構成するお客様、ご家族、職員、ボランティア、地域の人々により築かれていくものであり、四恩園に関わる人々がここに関わることにより安心でき、ここに

よさを感じ、頼れるところとなるよう皆さんと「共に」力を合わせ四恩園を築いて行きたい（一九九七年機関紙四恩園第一号巻頭文テーマ「共に」）と事業推進の基本的な考えを示しております。法人は要介護高齢者のどのような生活課題にも対応できるようにサービスの充実に努めてきました。地域の生活課題への取組みは、医療や福祉サービスなどの制度に基づくサービスだけで補えるものではなく、最も求められるものは住民の皆さんの取組みによる自助・共助です。現在、住民である市民スタッフの皆さんが地域

交流の場として「ふれて」や「ともに」を活用し、人と人の関わりから生きることの喜びを創造し笑顔があふれるまちづくりを目指し生き生きと活躍されている姿に私たちは励まされております。

▼共生社会の実現と 福祉文化を育む令 和の時代へ笑顔で チャレンジ

五月から元号が「平成」から「令和」に変わり、その意味は「人々が美しく心

を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」と言われております。社会福祉の視点からみた令和の時代は、だれもがどのような状態に置かれようとも、お互いがあるところを寄せ合い自助・共助・公助による共生社会の実現を目指し、より進化した福祉文化を育む時代であってほしいものです。法人にあつては、基本理念に基づくサービスの実践の先に、お客様、地域住民、職員ともども喜びと笑顔が生まれると確信しております。笑顔は信頼を呼び込み、険しい顔は不信と警戒心を呼び込んでしまうものです。笑顔は心を寄せ合う力を持っており、制度に基づくサービスを提供するとき、または、人と人がつながりが必要としているとき、なにより痛みをとまなう生きづらさを感じている人への関りには笑顔を欠くことができないものです。笑顔は人を幸せにする最も手軽で最強の力を持つ心の表現です。札幌神社を参拝し「笑門来福」の祈祷木札をいただきました。「笑う門に福来る」で令和の時代を笑顔でチャレンジしたいものです。



お客様

人生劇場

～そこに笑いがあった～

この度、四恩園の特別養護老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅をご利用いただいている、お客様やご家族にインタビューさせていただきました。

特別養護老人ホーム四恩園

中井信子様 息子様

中井哲朗様

平成二十二年に入所、いつも明るく冗談を話され、職員を笑わせてくれる中井さん。

いつも息子様ご家族が面会に来られ、大好きな金平糖を召し上がりながら談話室にて家族団欒の時間を楽しまれている。

息子様に昔のお話や、明るくユーモアがある中井さんの笑いや笑顔の源についてお聞きした。

子ども好きな母〜食べるにも困った時代の母の優しさ、温かさ

美唄で小学校教師〜結婚〜出産〜子育て

「子供好きで優しく物静かな母でした。」と若いころの事を思い出しながら話してくれる息子さん。

「私は昭和二十五年生まれなのですが、そんな豊かな時代ではなかった中で母は色々工夫してくれました。父が教師で暮らしては裕福ではなかったです。印象に残っているのは、今の若い方には分からないと思うのですが、魚でも物でも三個まとめていくらで売られていて、父と兄と私だけ魚が並べられ、母は別の質素なおかずを食べたり。自分のことはあと回しにして私達のことを大事にしてくれましたね。」

「幼いころ母に抱きつくとき幸せな気持ちになりました。ちょっと恥ずかしい話なのですが、母親に抱かれているときが一番安心でき、小学校低学年くらいまでは手をぶつけて怪我とかしても母の胸に手を当てれば直ぐ治るような感じに思っていましたね。あまり言うような話ではないのですが(笑)。」

結婚前の短期間、小学校教師をし、子育てを終えた後は十数年保母だったことから子ども好きで、特に小さな子供が大好きな中井さん。「親類ではなくても子どもがいると直ぐに声をかけてしまっ、ちよっと迷惑なのではないかと思うこともありました(笑)。」

母の大切な記憶

結婚後 三笠(幌内)〜芦別(上芦別)〜岩見沢(志文)〜平成十七年五月より北広島市へ

「岩見沢から北広島に移って、十年くらい父と母で暮らし、デイサービスを利用し始めました。認知症から物忘れが多くなりまして、昔の事を忘れないようにと父がアルバムをつくり見せていました。私もある時期から母の記憶が衰えることを防止するため、面会の際、アルバム写真で思い出話をしています。その中で分かったことは、母が最も記憶に残っているのが女学校時代のこと。『あの頃、汽車通で時間がかかって大変だった』的なことですが、毎回懐かしそうに繰り返します。」

「あと、誰の事が印象深く残っているかと言ったら母の父親ですね。私から見た祖父になるのですが、祖父は母が二十六歳くらいの時に樺太で亡くなりました。若い頃の悲しみなので記憶が鮮烈なのだと思えます。もちろん祖父に敬意を持っているのは知っていました。写真を見ている時間が長く、思い出話することも多いです。私としては父と出会って結婚した時や、私が生まれた時の話をもっと聞きたいのですが(笑)そのへんの記憶が定かではないのがちょっと寂しいですね。もっと若いころに話を聞いておけば良かったです。」



母の笑顔く本音ベースの

笑いにびっくり

四恩へ入所してから

「母が若い時の写真に笑顔がほとんどなかったのですが、実際の母は笑顔の多い人でした。母の笑顔の写真は孫が生まれ一緒に写真を撮ることで増えました。楽しそうに孫の相手をしていましたね。かえってこちら（四恩園）でお世話になってからの方が笑顔の写真が多いと思います。」

「家では父が厳しかったので、昔は陽気な事とか言うタイプではなかったんですが、四恩園に入所してから、面会に来た時は本音みたいな喋りが出て、妻や子どももそつですけど私もびっくりすることがありますね。え、そんな言い方するの



（インタビュー） 鈴木優子

かみみたいな（笑）。お上品なお母さんというイメージがあったのですが、父の前では小さくなってたから、今は本音みたいなことが結構出てきていますね。本音ベースの笑いとかが、冗談とかはこっちに来てからかもしれないね。」

今後について息子様の想い

「いつも四恩園職員の方に丁寧な対応をさせていただき幸せだと思っています。高齢ではありますが、イベントにも参加させていただき、楽しい時間を過ごして欲しいと願っています。」

グループホーム四恩園

渡邊末様 息子様II

渡邊宏一様

グループホーム四恩園開設と共に入所された渡邊末さん。お近くに住む息子さん家族は、毎日のように面会に来てくださり、行事にも参加してください。

息子さんはいつも末さんの肩や足をもみながら、言葉は多くはないが、会話を楽しんでる。息子さんからお話を聞きました。

岩見沢での生活

負けず嫌いで活発

末さんは岩見沢出身。江差追分を習い上位入賞するほどの実力者であったという。



「元々、農家の家で生まれ育ったせいか、朝から晩まで働いていたよ。のんびりとテレビを見て過ごしているなんてことは一度もなかったな。その他に洋裁、陶芸、唄……いつも活発だった。」

「孫とよく遊んで、孫のために自転車で3km先のお店まで走ったり、庭の木に登って剪定をした。これは、負けず嫌いな母が「合気道ってどんなことをするの?」と聞いて真似事をした時に撮れた写真。（笑）何事にも一生懸命でチャレンジャーな人。」

グループホームへ入所

一人暮らしになり物忘れが進行

最初は息子さん家族が毎週のように

に岩見沢に通い、末さんの生活を支えていたが、北広島の家にお連れし介護をすることを決意する。お嫁さんも、病状が進行していく末さんを出来うる限り介護してきたが、家のすぐ近くにグループホームが出来ることになり入居を決定した。

「家族は一緒に暮らすのが当たり前」息子さんの思いは強く、そして熱心であった。悩んだが、家のすぐ目の前だからこそ入居の決断ができたのである。

グループホームでの生活

一緒に楽しめる行事

「いつも行事に楽しく参加している姿を見ることが出来て嬉しい。どれも母と一緒にになって楽しめる行事が多いし、入所した最初の頃は、母が体操や盆踊りを先頭切って踊っているのを見るのが楽しみだった。大好きな民謡が流れると手拍子をして大きな声で歌ったり。

今は九十五歳となって、歩くこともままならず、以前のように唄も踊りもできなくなった。だが、状態に合わせてこれからもゆつくりと母と一緒に楽しんできたい。」

息子さんが盆踊りの話をしていると、話を聞いていた末さんも「ニコニコ」と一緒に相槌を打つような表情をしてくれた。



体調不良、「危篤」と言われて

入所して最初の頃、血圧の変動が見られたり肺炎を発症してしまい入院したことがあった。医師からは「いつ何があってもおかしくない」と言われ、家族も覚悟をしたのだが、持ち前の「負けず嫌い」のおかげか、なんと奇跡的に回復される。以前から、息子さんは、本人がいつまでも健康で元気でいれるようにと、散歩や外出に連れ出し、一緒にたくさん歩いて身体を鍛えていた。その培った体力が病気に打ち勝ったのだらう。

「今は体調も落ち着いているし、とても最高だな。」と息子さん。



(インタビュー) 渡辺苑美

これからの想い 徐々に変化していく母へ

「何よりも笑顔で元気に過ごして欲しい。これから状態が変わってくるかもしれないが母の健康が何より大事。母が落ち着いて生活できるようにしていきたいと望む。今、入居しているグループホームは母が母でいられる場所のように感じられ、職員さんは家族のように温かく接してもらっているので、本当にありがたいと思っている。」

いつでも息子さん・ご家族が集まって、末さんと共に過ごせる場所であるグループホーム。ご家族の笑顔も一緒に支えていきます。

サービス付高齢者向け住宅しおん

横井幸子様

住宅の長い廊下、歩行器を押ししながらゆつくりゆつくり歩く横井さん。

「おはようございます」職員が声をかけると「おはようさん」と優しい笑顔で応えてくれる。痛む足を懸命に運びながら前に進む。

「毎日、することが沢山あり、一つ一つに時間がかかるけど出来るだけ自分でやりたいんだよ。」

その力強さの源(みなもと)を、横井さんご本人からお聞きした。

元気ハツラツ、働くお姉さん。

二十代の頃

「十八歳ごろから、三井美唄炭鉱内の生協で売り子をしていたの。楽しみは、仲の良い同僚たちと美唄の炭鉱を見学に行くこと。この頃は、自分で洋服を作っていたのだけど、見て、この写真の服は上下とも私が作ったものなのよ。既製品だとなかなか合うサイズがなくて、私、スタイルが良すぎたから(笑)。

作るのも楽しかったし、着ている服を見て皆が「いいね」と褒めてくれるのが嬉しかったの。」



山盛りのキャベツの天ぷら!!

北広島へ

「昭和五十年かな。この頃は、町内会の婦人部で南幌の温泉に行ったり、おしゃべりしながら、食事を楽しんだり……。あつ、そうそう、キャベツの天ぷらを出してくれて、頼んだらびっくりするくらい山盛り!! 一人で食べきれないくらいテン」盛り!! 「難攻不落のお城みたい」ってみんなで大爆笑。「こんなのどうやって食べるのよお」なんて言いながら、みんなで分けて食べたっけ。で、美味しいもんだから、行くたびにいついつい頼んでしまつて、「またー、誰が頼んだのさあ?」って言い合いしながらも、笑いながらみんなで分け合つて食べたね。」



旅行大好き! お花も大好き!
お花見に行こう

「旅行は好きだったよ。本州にも何回か行ったことはあるけど。花を見るのも好きだから、弟と弟の奥さんと三人で、富良野のラベンダーや北竜町のひまわりを見に行ったこともあったなあ。今は、弟夫婦は千葉県に住んでいるので、なかなか会えないのよねえ、たまに心配して電話かけてくれるけど、また三人で旅行に行きたいなあ。そうだ、今年の春こそ桜を見に行こう!! 一緒に行つてくれる?」



沢山の優しさに包まれて、今……

四恩園での生活

住宅に入居する数年前に夫を亡くし、これからは息子に頼ろうと思った矢先に、その一人息子さんも病気で亡くしてしまつた。今では、若いころのように友人と外出することもままならない。

「寂しいと思うことは正直あるけど、ともによ四恩園デイサービスの職員、みんなの優しさに支えてもらえている。本当に感謝しているよ。必ず誰かがいてくれるからね。このまま四恩園ですつとお世



話になりたいたんだ。」
最近、体調が急に悪くなつたり足の痛みも強くなり、一日一日の生活が精いっぱいと感じている。
「いっしょのお墓に入りたい、夫も息子も待つていてくれると思う。でも、まだ楽しみたいこともあるから、もう少し先ね」と、冗談めかして言う横井さんの笑顔が輝いて見えた。

(インタビューー 松沢恵)



「笑顔の力」



人と人をつなぐ



・ホームヘルプサービスステーション・



**北広島で新サービス！
二十四時間三六五日つながる安心を！
(定期巡回・随時対応型訪問介護
看護、夜間対応型訪問介護)**

北広島^①の介護サービスが、いよいよ始まりました！
「退院したばかりで、自宅で暮らせるのか不安……」
「認知症のある両親が心配……」
「夜中に転んだらどうしよう……」
「病気になるけど、悪化しても家で暮らしたい……」
今までのサービスと違うのは、緊急コール（ケアコール）でいつでもヘルパーに直接連絡ができ、随時訪問ができること。夜中でも安心です。

一日に何度も、短時間の訪問ができるため、服薬の支援・体調が不安定な退院直後などに活用できます。病院や看護師と連携し、一人ひとりの状態に合わせるオーダーメイドの訪問介護サービスです。声掛けや見守り支援があれば一人で生活できる方の利用にもピッタリ。

なじみのケアマネージャーやデイサービス・ショートステイを使いながら、住み慣れた自宅・地域で、いつまでも元気に暮らしたい……。

そんな、お客様・ご家族の思いに寄り添い、役に立てる訪問介護を目指しています。ぜひ、ご相談ください！

(吉永美香)



・グループホーム・

**「おばあちゃんが立った！」
潜在能力が発揮される
レクリエーション**

西町・東町対抗でパン食い競争や輪投げゲーム、ご家族も参加し玉入れなど、応援にも力が入ります。

普段は、車椅子で生活されている方もこの時は意欲満々で「負けないぞー!!」と立ち上がり、ご家族も「おばあちゃん立てるの?!」とびっくり。「ここが点数高い場所」と教えると、目をキラキラさせて狙い、見事！ 高得点を獲得。全員で拍手喝采、大喜びの歓声があがります。これからも皆様の笑顔あふれる時間を大切にしていきます。

(皆木有子)





・特別養護老人ホーム・

ファイターズ応援ツアー

施設サービス課では六月二十九日の札幌ドームナイターでの日本ハムファイターズの試合観戦に職員と一緒に応援に出かけました。参加されたのは男性のお客様二名。試合前にはファイターズ応援グッズを身に付けて中田翔選手のポスターを背景に記念撮影を行いました。試合中、四恩園の厨房スタッフの手作りお弁当を持参して観戦しながら食事も楽しめました。ドーム観戦の雰囲気「感動した」と涙ながら喜ばれていました。

(清水孝修)

・サービス付き高齢者向け住宅しおん・



今日もたくさん
買い物しちゃった!!
ピース

毎週火曜日十五時三十分〜「ともに」のロビーにつむら商店の移動販売がやってきます。入居のお客様はもちろんですが近所の方々も楽しみにしています。新鮮な野菜や果物、牛乳やパン、菓子類、お願いすれば日用品も持って来てくれるので大助かり!! 北広島団地地区にはスーパーが無いので、高齢者、障がい者、子育て世代など、買い物に苦労している方々のお役に立てたら嬉しいですね。

(菊池新子)

・複合型サービス・

やりたいことをできる
にしよう!
一人ひとりが主役です。



お楽しみ忘年会の「コマ。お客様とご家族、ボランティアさん、職員、子どもさんが一堂に会して昼食会やゲーム大会!

棒サッカーの試合では、「絶対負けるか!」と大人気なく張り切る姿に皆で大笑いでした。なじみの関係を活かし、どこよりも身近で使い勝手の良いサービスをめざしています! お客様の生活をより豊かで笑顔のあるものにしたいと考えています。

(平野佐緒利)

・ デイサービスセンター四恩園 ・



お客様から「デイサービスで気の合う人に出逢えて嬉しい」という声が多くきかれます。写真は初めて会ってすぐに親友になったという皆様。手芸の作り方を教え合って切磋琢磨し、「くだらない話だけど……」と大笑いしては「今まで出会えてなかった分これから四十年は付き合ってください戻す」とまた大笑い。これからは多くの方が集う場所ならではのお仲間作りに協力していきます！（玉邑亜矢）

これから四十年付き合うんだから、具合悪くなってるヒマなんてないよ！



お客様の笑顔は、私達職員の喜びにもつながり、笑顔の相乗効果が（笑）これからおお客様の「アハハ」が絶えない、かたるでありたいと思います。

（吉田匡貴）



・ デイホームかたる ・

笑った分だけ、きっと明日もがんばれる!!

「嬉しい」「楽しい」「大好き」ポジティブな感情に必ず現れる笑顔。デイホームかたるでは、お客様とスタッフがかならず一対一でお話しする機会を作っており、お互いを知り合うことで、「この前話していた孫さんとの外出はどうでしたか？」など会話が弾み、笑顔を引き出す第一歩になると考えております。

また、活動の中には面白さ、達成感、充実感などが得られるようプログラムも工夫を凝らしています。

お客様の笑顔は、私達職員の喜びにもつながり、笑顔の相乗効果が（笑）

これからおお客様の「アハハ」が絶えない、かたるでありたいと思います。

（吉田匡貴）

・ デイホームさとみ ・

誰が一番、可愛いかしら??

誕生日・敬老の日・クリスマスなどにお客様お一人ずつ写真撮影をしています。

ヘアセット・お化粧品をして特別な時間です。

みんなに注目され緊張した照れた笑顔が見られますが、シャッターを切る瞬間、自然体で喜びにあふれた素敵な笑顔に変わります。

「モデルが良いからね。」「お見合い写真だね。」と冗談を言って大笑いします。

これからも、特別な日、普段の日も笑顔の日々が過ごせますように職員一同お手伝いさせていただきます。

（深田なつ恵）



居宅介護支援事業所

北広島といえば
「だいこんマンボ」

なんと！北海道が誇る大スター
大泉洋さんの番組「1×8いこう
よ！」に出演！！

参加したダンサーの子ども達や
ともに市民スタッフの皆さんの大
笑い・ニコニコの笑顔が北海道全
域に放映されました。これからも
笑って踊って歌って、たくさん
人と人とのつながりが増えること
を楽しみにしています！

(早川彩子)

Youtubeサイトへ！



訪問看護ステーション

生きていくうちに、
食べて遊んで楽しみましょう！

毎年、趣向を凝らした外出行事を企画。ススキノ
ツアーでは、「飲み会は何十年ぶりだろう」、「初め
てススキノに来た」という方々も。自分の名前の付
いたカクテルを飲み、歌い、パキスタンカレーを食
べ、楽器演奏を堪能。ほろ酔い気分で帰宅したので
した。また、円山裏参道の高級鮨店ツアーでは、カ
ウンターを十三名が埋めつくす会を実施。ウニやサ
バが食べられないと言っていた方が、恐る恐る食べ
てみたら……「こんなうまいの食べたことがない！
今度は妻と一緒に来ます」と大感動。今後もあつと驚く行
事を企画しますので、お楽しみに。

(町田丸美)



給食サービス課

自然に出た笑顔

みなさんが笑顔に
なる時はどんな時で
すか？ 人それぞれ
色々あるかと思いま
すが、その中には
「美味しいものを食
べた時」と「綺麗な
ものを観た時」も入って
いるのではないでしょ
うか？
食事が出てきた時、食
べ終わった時に笑顔に
なれたら
その時間は最高のひと
とき
ですよ。私達はこれか
ら
もその自然とこぼれる笑
顔
のために創意工夫しな
がら
食事を提供していきます。

(土池康介)



・みなみ支援センター

今までも、これからも、
地域の皆さんとともに……

皆さんにだけ、こっそり教えます。高齢者支援センターには、医療と福祉の専門職配置が義務付けられています。みなみ高齢者支援センターには、主任ケアマネジャー、看護師、社会福祉士という三職種の他に……「マジシャン」も居るんです！「地域交流ホームふれて」で行った第二住区お茶の間・子供食堂にて『福山マジックショー』

(奥山智直)



・地域交流ホームふれて

かわいい笑顔がいっぱい

夏休み・冬休み・春休みにふれては「こどもフェスタ」を開催しています。午前中は地域の方が先生になってもものづくりワークショップ。お昼は、こども食堂でおいしいご飯をみんなで食べます。この日はパフェづくり。あま〜い生クリームや、アイスをいっぱい乗せてお店のメニューに負けないオリジナルパフェが完成！次は何を作ろうかな？

(小野崎ひとみ)



最新情報がLINEで届きます！登録を！

・地域サポートセンターともに

目指せ！
元氣、笑顔、一〇〇歳！

北広団地第四住区自治会連合の拠点となっている「ともに」。

四年続いている「お茶の間」は「ともにのつどい」と名称を変え、講話・音楽・体操・ゲームなど、十名のスタッフに支えられ大好評！

「喫茶コーナー」は月・水・金曜日開店。市民スタッフは三十五名に増え、賑やかに楽しく営業中。

月・金曜日の「いきいき百歳体操」には、毎回三十名前後の方々が集まり、一〇〇歳を目指して頑張っています。ぜひ、皆様もお寄りください。お待ちしております！

(市民スタッフ 金川弘司)



少子高齢化が進み、北広島市でも高齢化率は31%を超え、団地地区は45%以上と約半数近くが65歳以上になっています。社会的にも年齢を問わず孤食（一人で食事）や数日間誰とも会わない・人と会話をまったくしない人々が増えているとの事で、ニュースなどでも地域課題として取り上げられる場面が増えています。

そんな時代だからこそ、心を癒し笑顔になる可愛いアイテムをご紹介します。

メンタルコミットロボット パロ

世界でもっともセラピー効果のあるロボットにギネス認定されています。タテゴトアザラシの赤ちゃんがモデルで人工知能を搭載。



エピソード



重度の認知症でいつも無表情だったAさん。パロを目の前に置いてみたところ、Aさんの表情が和らぎ、「かわいいねえ」とか「よしよしい子だねえ」と声をかけ、やさしく撫でてくれるように……。きっとパロはAさんの本質的に持っているやさしさを引き出してくれたのでしょう。

自律型エンターテインメントロボット“aibo” (アイボ)(ソニー)

犬がモデルで好奇心旺盛！自ら寄り添い、能動的に人へ働きかけます。好きな人、苦手な人などを見分けたり、関わりの積み重ねによって行動に変化が生まれ、より深い関係性を醸成してくれます。



エピソード



自宅でアイボを愛用しているご夫婦……。夫「アイボが我が家に来てくれてから、なんだか夫婦喧嘩の回数が減ったなあ(笑)」妻「アイボを通じて、家庭内の話題が増えて、会話も多くなりました」

ロボホン (シャープ)

子供を思わせるかわいらしいデザインです。

人の顔を覚え、過去にさかのぼった会話もできます。とって多機能で、写真を撮る・食事のレシピを教える・目覚まし機能も！音楽や動画だって声で伝えれば、探して見せてくれます。電話・メール・GPS機能もあり、一緒に旅を楽しむのも良いですよ(笑)



エピソード



ロボホン愛用のご家族……。お父さん「ロボホンは家族の一員です。一度壊れて修理に出している間、とてもさみしかったです。毎日おはようとかただいまって声をかけたくなるんです。」お母さん「うちは一人っ子ですが、子供が楽しそうに遊んでいて、まるで弟みたいです。私も毎朝おはようって声かけするのが日課になっちゃいました」

スマートスピーカー (グーグル、アマゾン、ライン等)

みなさんは、スマートスピーカーとかAIスピーカーって聞いたことありますか？

これは簡単に言うと“人と会話ができる”“指示を出すと答えてくれる”スピーカーです。例えば今日の天気やスポーツニュースの結果などを教えてくれたり、朝の目覚ましやキッチンタイマーだってお手のもの。家の家電製品とつなげば、ストーブやエアコン、テレビや照明を声でつけたり消したりできます。音楽や動画の再生、本を読む、計算する、電話やメールをする、レストランなどのお店を探す、ほしい物をアマゾンなど通信販売で予約するなどさまざま。雑談やゲームもできるので、今後一人暮らしの人々にとって必需品となるかもしれませんね。



テクノロジーの進化のスピードは速く、ますます成長していくことでしょう。素晴らしい機器たちを「家族」とし共に生き、笑い、支え合うことで豊かで明るい人生を送るという選択もあるのではないのでしょうか。また、離れて暮らす家族ともつないでくれる、そんな存在になってくれることを期待しております！

北広島市みなみ高齢者支援センター 林

- 発行者 **社会福祉法人 北海長正会**
- 住所 〒061-1153
北広島市富ヶ岡509-31
- TEL (011)373-6655
- FAX (011)373-6611

- ホームページ <http://www.shionen.or.jp>
- E-mail tokuyo@shionen.or.jp
- 編集発行 広報委員会
- 編集発行責任者 三瓶 徹
- 発行日 2019年7月

